

第2回 伊勢湾漁業影響調査委員会 議事概要

1. 開催日時：平成26年11月13日 13:30～16:00
2. 場 所：TKP ガーデンシティー名古屋新幹線口 バンケットホール7B
3. 出席委員
(委員長) ※敬称略
鈴木 輝明 名城大学 大学院総合学術研究科 特任教授
(委員) ※五十音順、敬称略
井上 徹教 (独) 港湾空港技術研究所 海洋情報・津波領域
海洋環境情報研究チーム チームリーダー
大関 芳沖 (独) 水産総合研究センター 東北区水産研究所
業務推進部長
古丸 明 三重大学 大学院生物資源学研究科 教授
中田 喜三郎 名城大学 大学院総合学術研究科 特任教授
中村 由行 横浜国立大学 大学院都市イノベーション研究院 教授
前川 行幸 三重大学 大学院生物資源学研究科 特任教授
4. 主な審議内容
 - 1) 現地調査結果の報告と重要魚種の抽出
 - 2) 伊勢湾シミュレーターの計算結果と現地調査結果の比較
5. 議事概要
 - 1) 現地調査結果の報告と重要魚種の抽出
 - ・ 委員会において、伊勢湾の水産活動において、候補地及びその周辺の海域は重要な場所であるとの認識が示され、評価に向けた調査の考え方、方法等について議論され意見が出された。
 - 2) 伊勢湾シミュレーターの計算結果と現地調査結果の比較
 - ・ 委員会において、現地調査結果と伊勢湾シミュレーターの計算結果を比較し、伊勢湾シミュレーターによる現地調査結果の再現性や今後留意すべき事項について議論され意見が出された。

6. 議事

1) 現地調査結果の報告と重要魚種の抽出

<委員>

調査の結果から、伊勢湾の水産活動において、候補地及びその周辺の海域は重要な場所であるとの認識。

<委員>

魚類漁船漁業標本船調査結果について、全体漁家数に対する標本漁家数の代表性について整理してほしい

<委員>

護岸生物調査について、護岸及びその周辺の魚の分布が把握でき、現在の中部国際空港 西側護岸の機能を定量的に評価できるよう、測点、測線、調査方法について検討していただきたい。

<専門員>

今後の評価に向けて、貧酸素水塊の分布と魚介類の分布を重ね合わせて整理をお願いしたい。

<委員>

底生生物と底質の関連が非常に深いと感じるため、今後解析を実施するにあたり考慮していただきたい。

<委員>

浮遊幼生について、アサリ以外の貝類は分析（同定）していないが、今後の評価において浮遊幼生の情報は非常に重要になってくることから、アサリ以外の貝類の浮遊幼生について、現在保管している今回の調査で採取した試料において同定可能か教えてほしい。

<事務局>

少し時間が経過してしまった試料は劣化しているため、分析（同定）することは難しい。ただし、試料採取後すぐであればアサリ以外の浮遊幼生の分析（同定）は可能と思う。

<委員>

推測ではあるが、伊勢湾と三河湾の間に浮遊幼生の供給ネットワークの存在がうかがえる。仮に候補地に構造物ができた場合、その供給ネットワークに何らかの支障が出るかどうかという判断は1つの評価になってくる。それを踏まえ、浮遊幼生調査の内容については、今後、各委員の意見を伺いながら検討してもらいたい。

<委員>

これから様々な魚種の検討を実施していく中で、産卵時期における各魚種の分布状況を標本船調査や試験曳きの調査結果から把握し、産卵のために利用している海域が見えてくると思う。それについて、今まで調査を実施してきた中で、考えられることがあれば教えてもらいたい。

<事務局>

産卵時期と標本船調査や試験曳きの調査結果を見比べていくと、産卵の場所も想定できてくると思うため、それは今後の調査結果も確認し、魚種毎に整理したいと考えている。

<委員>

38種の重要魚種が抽出されたが、卵稚仔の分析結果について不明卵となっているものが非常に多い。評価するうえで、卵稚仔の同定が可能な魚種と不可能な魚種をわかるようにしてほしい

2) 伊勢湾シミュレーターの計算結果と現地調査結果の比較

<委員>

知多半島西岸域への伊勢湾中低層水の湧昇が何によって起こるのか、また、それが滞留するのは風、潮汐、地形等何が原因なのか、伊勢湾シミュレーターの分解能を考慮しながら検討していただきたい。

<委員>

アサリの浮遊幼生や伊勢湾中低層水の湧昇の原因を考える上で、風はかなり敏感に結果へ影響している印象である。今後は以前にも増して風について留意しながら検討を進めてほしい